

知っておきたい プロヴァンスの歴史

2015年版



Comité Régional de Tourisme プロヴァンス・アルプ・コート・ダジュール地方観光局
Contact presse プレス・コンタクト : presse@crt-paca.fr - Tél. : +33 (0)4 91 56 47 00
www.presetourismepaca.fr

Provence-Alpes-Côte d'Azur
TOURISME



p. 5 時代とともに巡る旅

p. 6 まず初めは、先史時代

p. 8 古代ギリシャ・ローマ時代

p.12 中世

p.13 12世紀

p.14 13世紀

p.15 14世紀

p.16 16世紀

p.17 17世紀

p.20 19世紀

p.22 20世紀の時代

p.24 21世紀の時代



時代とともに 巡る旅

ラベンダー、セミは言うに及ばず、澄み渡った空、色とりどりのフルーツ、素晴らしい生活水準、親切な人々、そしてもちろん海。この驚くべき大地、プロヴァンスを知りたいと感じたら、まずはプロヴァンスの色彩、味覚、香りから始まり、最高の気候、見事な自然景観、生活を楽しむ人々の知恵を知ること、神の恩恵を受けたこの大地をより深く理解することができます。しかしながら、他にもあまり一般的ではありませんが一時代をさかのぼってプロヴァンスの歴史に目を向け、この地に生きる人々の天才ぶりを知るための、とても興味深いアプローチがあります。それは「石」です。

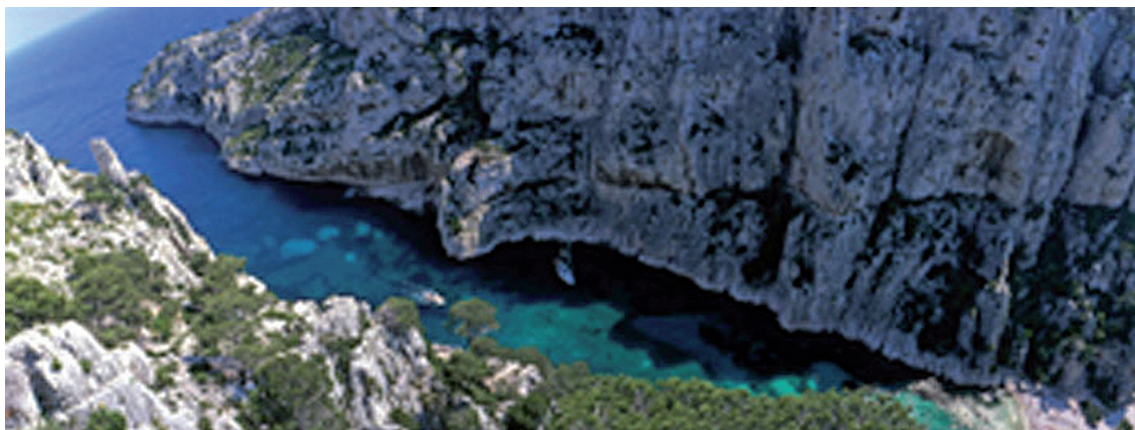
3千年にも渡る文明の物語の中にたっぷりと浸って下さい。皆様の視線の中に全てが飛び込んできます。とても豊富で充実したその物語に、好奇心旺盛な皆様にはきっとご満足いただけます。この地方はとてつもない多様性を持っていますが、面積的には決してそんなに広いわけではありません。高い山に築かれた要塞から古代ローマの闘技場、最も見事なプロヴァンスの別荘から最も驚異的な現代建築、最も人目につかない修道院から最も威厳のある建造物、最も斬新な美術館から最も古典的な邸宅。さあ、時代を超えた素晴らしい旅へ出発しましょう。プロヴァンス・アルプ・コート・ダジュール地方は、クリエイティブな大地です。この地にある数々の建築物の傑作を通して、プロヴァンス地方の歴史を発見して下さい。

石造りの様々な建物から、この地方の比類のない貴重なものに目を向けることができます。しかもとても身近にあるので、それを発見して楽しむのはまさに皆様次第。昔の音楽を久しぶりに聞いたのに、まるで初めて耳にしたような驚きを感じたり、子どもの頃の記憶から長らく遠ざかっていた伝統料理を、再び味わったかのように感じられるでしょう。プロヴァンスにはもちろんラベンダー、太陽、そして海があります。しかしここでは、全ての物質の中で石材が一番重要な素材です。もしプロヴァンス・アルプ・コート・ダジュール地方とその歴史を知りたいと思われたら、建築家たちが素晴らしいガイドとして皆様のお伴をさせていただきます。



プロヴァンス地方、 100万年前に遡る人類の冒険

まず初めは、先史時代



時代を超えた旅なくして、真のプロヴァンスを知ることはできません。はるか昔、この地方は海に覆われていました。それは**オート・プロヴァンス Haute-Provence 地域にある保護地質地区**の、比類なき地質遺産を訪れることで体感できます。

ディーニュ Digne に広がるアンモナイトの岩石やカステラーヌ Castellane の海牛跡、またバレミエン Barrémien の標準層は、地質学的に世界中で知られています。きちんと整備されたこの保護地質地区を訪れると、まさに野外ミュージアムを訪れているかのように、この大地の成り立ちをより理解することができます。

またこのオート・プロヴァンス地域にある**ヴェルドン地方自然公園 Parc Régional du Verdon**は、ヨーロッパでも類まれな壮大なパノラマ景観で知られています。村々が見張り番のように点在し、スリル満点の様々なスポーツが体験できるこの自然公園の歴史は、**第四紀にアルプス山地の隆起**が起こった時代まで遡ります。この地方自然公園保護区のカンソン Quinson にある先史博物館を訪れてみましょう。**建築家ノーマン・フォスター卿 Lord Norman Foster**により建てられ、この地方の先史時代をわかりやすく解説した見事な博物館となっています。プロヴァンスにホモ・サピエンスが現れたのは今から100万年前、旧石器時代のことでした。

地中海沿岸に目を向けると、マルセイユ Marseille とカシ Cassis の素晴らしい入江にある**コスケ海底洞窟 la grotte sous-marine Cosquer**は、1991年に歴史遺産に認定され、地中海のラスコー洞窟として知られているんですよ！世界でも稀にみるこの洞窟には、今から**27,000年～18,500年前**に製作された約**200もの洞窟壁画**が残っています。

またこの時代の動物の生痕も残っており、馬、鹿、野牛、アイベックス（山岳性野生ヤギ）、アザラシ、ペンギンの痕跡から、2万年前のプロヴァンスが寒冷気候であったことがわかりますね！槍で殺された人物を表現した見事な彫画のその人物こそが、初めて描かれた「プロヴァンサル provençal（プロヴァンス人）」なのです！**水深37mの位置**にあるこの洞窟の入口からの入場は禁止されており、素晴らしい**マルセイユ・カシ・カラंक国立公園 Parc National des Calanques de Marseille-Cassis**の中心に造られた175mのトンネルを通ってのみ、アクセスが可能です。

この保護区域では、ハイキング、ロッククライミング、サイクリング、釣り、ヨット、サーフィン、ダイビングといったスポーツを、自然を傷つけない形で楽しむことができます。

プロヴァンス地方には、目の前に広がる**大地に3億年にも渡る歴史**が詰まっているのです。

カシのプロダイバーだったアンリ・コスケ Henri Cosquerは、1985年にマルセイユとカシの間にある入江で洞窟の入口を発見しました。そして彼はその洞窟を何度も訪れて踏査します。マルセイユとカシの間の海岸線はとても複雑な地形で、その多くが入江となっており、まさにこの入り組んだくぼみの一部に隠れた見事な洞窟をアンリ・コスケが発見し、1991年には歴史遺産に認定されました。

詳しくはこちらからどうぞ

オート・プロヴァンス地域の保護地質地区

Réserve Géologique de Haute Provence

www.resgeol04.org

ヴェルドン峡谷の先史博物館

Musée de la Préhistoire des Gorges du Verdon

www.museeprehistoire.com

カラंक国立公園

Parc National des Calanques

www.calanques-parcnational.fr

古代ギリシャ・ローマ時代



古代ギリシャ人によるマッサリアの創設から、 プロヴァンス地方における古代ギリシャ・ローマ時代への変遷

プロヴァンス・アルプ・コート・ダジュール地方は、古代ギリシャ・ローマ文化によって形成されました。建築、芸術、スポーツ、言語、美食といった文化遺産は、現在に於いてもプロヴァンス地方のアイデンティティーによく見て取れます。

マッサリア Massalia から
マッシリア Massilia へ

マルセイユの歴史は、「神話上の二人の人物、ジプティス Gyptis とプロティス Protis」が地中海世界に街を築き、ギリシャ文明を持たらしめたことに由来します。

紀元前 600 年、小アジアからやって来た古代ギリシャの一族であるフォカリア人がラシドン Lacydon の入江（現在の旧港）に街を築いた結果、街は急速に発展しました。こうしてマルセイユ「マッサリア」が誕生したのです。

紀元前 49 年、カエサルに征服されたフォカリア人の街は、ギリシャ文化の影響を受けながら、古代ローマ都市「マッサリア」として進化していきます。マルセイユは、その都市の征服者たちの生活様式や文化を取り入れ、帝政ローマの浴場や劇場、フォルム（公共広場）などが建築されました。港は発展し、古代ローマのドックなど船の建造、修繕のための広大な倉庫が、海岸に沿って造られました。

今日、旧港からすぐ近く、古代ギリシャ・ローマ時代には港であった場所に建つ証券取引所の遺跡地区周辺にあるマルセイユ歴史博物館 Musée d' Histoire de Marseille は、大規模な改修工事を終え、フランスのみならずヨーロッパの歴史博物館の中でも最大規模のものの一つに数えられます。ここでは紀元前 6 世紀から紀元後 4 世紀までにわたる港の活動の歴史の変遷と、難破船から発見された遺留物が展示され、その中でも古代ローマ時代の船体の残骸は、特に注目に値します（2 世紀末）。

また隣接するこの遺跡地区に広がる場所（遺跡の公園 Jardin des Vestiges）には、ヘレニズム時代（紀元前 3 世紀～1 世紀）と古代ギリシャ・ローマの港が栄えた時代（3 世紀初め）のギリシャ都市の城壁の名残であることが想像できます。

マルセイユの人々の勇敢さに感銘を受けたカエサル！

紀元前 1 世紀、カエサルによるマルセイユの「制圧」

ローマ内戦の真只中にあった紀元前 49 年、共和制ローマ期の軍人かつ政治家であったポンペイウス Pompée は、クラッスス Crassus、カエサル César とともに三頭政治を行いました。クラッススの死後は三頭政治が崩壊し、競争心と野心がひしめくカエサルとポンペイウスの間で激しいローマ内戦が勃発します。

当時マルセイユはカエサルのライバル、ポンペイウスを支持します。そこでカエサルはフォカリア人が築いた植民市を包囲し攻撃を開始、マッサリアを包囲するため、カエサル側についたアレラーテ Arelate（現アルル Arles）で十数隻の軍艦を造らせ軍隊を派遣します。マッサリアは抵抗を続け、長くギリシャ系住民の拠点であった街を守ろうとしましたが、勇敢で毅然とした抵抗にもかかわらず、ほぼすべての軍艦が撃沈、拿捕されてしまいます！しかしマルセイユの人々は、最後の最後まで屈することなくさらに数か月間、包囲の中を耐えましたが、最後はローマの戦術に屈しました。

当時のマッサリア人たちのこうした勇敢さに感銘を受けたカエサルは、市民を奴隷化することなく商売の特権を与えました。しかし彼らの自治権を剥奪し、マッサリアを監視するため街に近い丘に軍隊を駐留させます。「監視の丘」と呼ばれるその丘には、1864 年以降ノートル・ダム・ド・ラ・ギャルド・バジリカ Notre-Dame-de-la-Garde 大聖堂がそびえ、マルセイユの守護聖母が街をやさしく見守っています。

詳しくはこちらからどうぞ

マルセイユの歴史を辿るコースで、時代を巡る素晴らしい旅をお楽しみ下さい。

http://visite.marseille.fr/promenade_historique

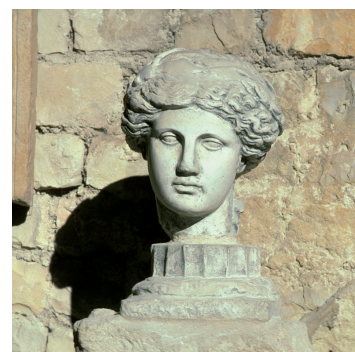
マルセイユ観光局

www.marseille-tourisme.com

ジプティス Gyptis とプロティス Protis の伝説について

プロティス率いる古代ギリシャの一族であるフォカリア人が、ラシドンの沿岸に上陸したちょうどその日、セゴブリージュ Ségobriges 族（地中海沿岸に定着した数あるリグリア人 ligures 部族の一派）の長であったナン Nann が、彼の娘のジプティスを結婚させようとしていました。当時の習慣では、結婚する女性自身が自分の気に入った男性を夫に選び、宴会の終わりにその男性にワイン一杯を差し伸べることになっていたのです。フォカリア人の船乗りたちは、親切にもこの宴会に招かれます。デザートが出された時、プロティスに一目惚れをしたナンの娘ジプティスは、彼にワインを差し出したのです。婚礼のお祝いとして、花嫁の父ナンは新郎新婦に地中海沿岸一帯を寄贈し、そこに新郎のプロティスはマッサリアの街を築きました。それが時代とともにマッシリアとなり、そしてマルセイユとなったのです。





アレラーテから古代ローマ都市アルルへ、 ユネスコ世界遺産に認定された街

ヴァン・ゴッホ Van Gogh が描いたカマルグ Camargue 湿原地帯の中心都市アルルは、ローヌ河の両岸に渡って広がり、ガリアと地中海における商業の中心都市として繁栄しました。今でも数多くのお祭りでにぎわい、特に**伝統行事の闘牛とフェリア**、雄牛のレース、カマルグ風レースなどが開かれます。

類稀なローマ遺跡が数多く残ることから、**ガリアの小ローマ（ラ・プティット・ローム）**と呼ばれたアルルは、街全体の古代遺跡が見事に保存され、フォルムや**円形闘技場**、**古代劇場**、**浴場**といった威厳のある建物を中心に構成されています。

古代ローマ時代における都市アルルの役割をより深く理解するには、県立アルル古代博物館 Musée départemental de l' Arles Antique を訪れてみましょう。カエサル素晴らしい胸像と、2010年にローヌ河から引き揚げられた当時の沈没船などが展示されています。全長 31

mのこの平底船は、世界で最も良い状態で保存されています。

90 年頃、ローマのコロセウムに倣って建てられた複数の**闘技場**では、剣闘士の競技や雄牛のレースが開催され、2 階建ての観客席は 2 万人もの観客を収容しました。今日でも毎年春と秋に行われる闘牛には、多くの熱烈なファンがやって来ます。

紀元前 1 世紀終わりに建てられた**円形闘技場**では、かつて古典悲劇作品とパントマイムが上演されていました。今日ではあらゆる分野のショーが開催され、年間 24 万人の観客が足を運んでいます。

「なんと、カエサルではないか！」2007 年 10 月にアルルで発見された頭像を一目見た**考古学者リュック・ロン Luc Long** は、とっさに叫びました。その後この像が本当にカエサルなのかどうか、研究が続いていますが、ロンのこの心の叫びは今なお響き渡っています。

2 千年以上の長きに渡ってローヌの川底で眠りにいていた「この美しく、力強く、生き生きとした大理石の頭像」が発見され、ローヌから引き揚げられてほどなく、リュック・ロンはその顔はまさに**ガリア人の勝者カエサル**の表情であり、**彼が生きていた時代（紀元前 46 年）に作られた唯一のもの**だと確信しました。

詳しくはこちらからどうぞ

アルル観光局 www.arlestourisme.com

“アルル国際写真の出会い Les Rencontres d' Arles”

www.rencontres-arles.com

2015 年 7 月 6 日～9 月 20 日

ガリアの小ローマと呼ばれた街アルルからほど近く、アウグストゥス皇帝 EMPEREUR AUGUSTE の命により紀元前 55 年に建てられた**オランジュ ORANGE**の**古代劇場**は、その稀に見る保存状態の良さで知られています。幅 103 M、高さ 36 Mの舞台奥の石壁の中央にそびえたつ高さ 3,5 Mのアウグストゥスの彫像が目を引きまします。ユネスコ世界遺産に認定されたこの古代劇場は、9 千名の観客を収容できます。

毎年夏には、1869 年から続く**レ・コレジー LES CHORÉGIÉS**と呼ばれる世界的にも名の知れた野外音楽祭が開かれ、世界で名だたるテノール歌手の歌声が響き渡ります。21 世紀の時を超えて、王の門の上にそびえる中央上部の石壁から、古代ローマの初代皇帝が観客をお迎えしています。

プロヴァンス地方で最も標高の高いヴァントゥー山 MONT-VENTOUX の麓にある**ヴェゾン・ラ・ロメヌ VAISON-LA-ROMAINE** は、フランスで最大のローマ遺跡が残る街です。ここにもまたピュイマン PUYMIN 地区のウヴェーズ OUVÈZE 河

右岸に**古代劇場**があり、20 年近く前から、夏には**ヴェゾン国際ダンスフェスティバル FESTIVAL INTERNATIONAL DE DANSES DE VAISON**が行われています。

夏には最大の野外オペラ会場となっている古代劇場では、1988 年から**フランス・イタリアの両国籍を持つ有名なカリスマ的テノール歌手、ロベルト・アラニャ Roberto Alagna** が出演する音楽祭を聞きに、世界中から聴衆が集まります。ルイ 14 世をして「わが国で最も美しい壁」と言わしめた、中央上部にアウグストゥスの彫像が立つ古代劇場の舞台にはまた、モンセラート・カバレ Montserrat Caballé、クリスタ・ルートヴィヒ Christa Ludwig、プラシド・ドミンゴ Plácido Domingo、ルチアノ・パヴァロッティ Luciano Pavarotti といった世界に名だたる歌手が出演しました。

www.robertoalagna.net

詳しくはこちらからどうぞ

オランジュ観光局 www.otorange.fr/

オランジュの野外音楽界、レ・コレジー www.choregies.fr

ヴェゾン・ラ・ロメヌ、ヴァントゥー観光局 www.vaison-ventoux-tourisme.com/

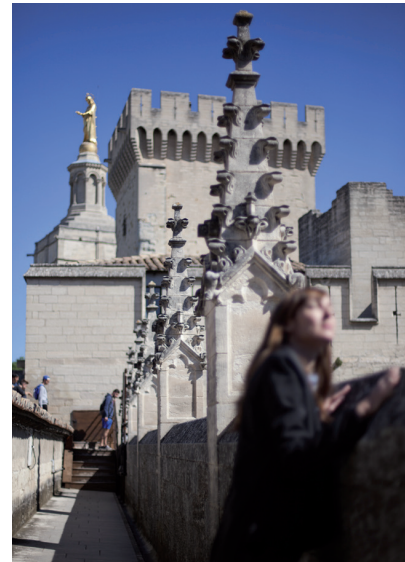
ヴェゾン・ラ・ロメヌの古代劇場で行われる、**ヴェゾン国際ダンスフェスティバル**

Festival international de danses au grand théâtre antique de Vaison-la-Romaine

www.vaison-danses.com, 2015 年 7 月 10 日～26 日



中世



12世紀

中世の時代、プロヴァンス地方ではキリスト教が定着します。

多くの修道院が建てられ人々は修道院で生活し、その活動は最盛期を迎えました。

中でもこの地方で最も魅力的な代表建築は、シトー会の修道院です。

プロヴァンス地方に花開いた シトー会

プロヴァンス地方には、シトー会によって建てられた3つの見事な修道院があります。トロネ Thoronet、シルヴァカーヌ Silvacane、セナンク Sénanque の各修道院は、「プロヴァンスの三姉妹」と呼ばれ、シトー会の規律正しい精神性が良く表現された見事な建物には、創建当時の姿が現在もそのまま残されています。プロヴァンス地方の内陸に静かに佇むこれらの修道院を訪れると、その人里離れた谷間、創建当時のままの石材、ひっそりと流れる小川やその神秘的な水源から、また一味違ったプロヴァンスの一面を見て取れます。現在でも規律正しい修道生活を送っている修道士たちの生活を妨げないために、こうした修道院はガイド付きで一般公開を行っています。

現在のリュベロン地方自然公園にあるセナンク修道院を取り囲む谷は深く、人里離れ、木々に覆われ、また周囲を小川が流れるその環境は、修道院を建てるのに理想的な場所でした（実際、セナンクという名前はもともケルト語で「沼地の峡谷」を意味します）。セナンク修道院の創建は1148年。1544年の宗教戦争で、ヴァルドー派 vaudois の信徒たちにより修道院の一部を焼かれてしまいます。その後しばらく野放しにされていましたが1988年、新たに修道士の小さなコミュニティ（もともとはレランス Lérins 諸島の一部を構成するカンヌ沖合のサン・トノラ島 île de Saint-Honorat に建てられた修道院出身の修道士たち）がセナンク修道院にやって来て、シトー会の昔ながらの伝統生活を再開しました。またこのセナンク修道院は周囲に広がるラベンダー畑によって、花盛りの6月半ばから7月半ばにかけて一面のラベンダーに覆われた素晴らしい景色が修道院の美しさを一段と引き立て、最も写真に収められている修道院の一つとなっています。

1146年、ヴァール県の内陸に建てられたトロネ修道院は、シトー会の3つの修道院の中でも最も素晴らしい建物の一つに挙げられます。完璧なハーモニー、シ

シトー会の精神性

シトー会の修道士、聖ベルナル **Saint-Bernard** は、世俗と無縁の世界に生きることを呼びかけます。その教えはシトー修道会創設の基盤であり、同時に **11世紀と12世紀における精神性の目覚め** となってゆくのですね。シトー会の修道士たちは、決して隠遁生活を送っていたわけではありませんが、人里離れた静かな場所で共同体を営もうとしました。その結果、シトー会修道院が次々と建てられていったのです。シトー会は、12世紀の宗教史において最大の役割を果たしたキリスト教会に属する修道会です。このシトー会の発展は、**クレルヴォーのベルナル Bernard de Clairvaux (1090 - 1153)** による功績が大きく、その人格とカリスマ性で、多くの人々を引きつけました。彼の影響力と名声によってシトー会は、12世紀における最も有名な修道会となったのです。彼はシトー会の創始者ではありませんが、押しも押されぬ指導者となりました。彼の精神性はその禁欲生活に強く現れており、静かな観想生活を送るシトー会の教会は造りもシンプルで、必要以外の一切のものを排除していることで、空間の美しさをより際立たせています。

シンプルな造り、石材の厳密な組積み、必要最小限のみの装飾全てが、3万〜4万㎡にも及ぶ石材で建てられた簡素で飾らない修道院の空間そのものを、より一層引き立てています。カシの木々に囲まれ人里離れた場所にひっそりと佇むトロネ修道院は、シトー会の禁欲的な生活にとってもマッチしています。完全に周囲の環境に溶け込んだこの修道院は、精神性と信仰を建築で表現した見事な一例です。そこでは計算し尽くされた光の取り入れ方が、極めて重要な役割を果たしています。**都市計画建築家のフランソワ・ブイヨン François Pouillon** による第二次世界大戦後の建築作品は、この修道院に大きなインスピレーションを受けています。また1991年から毎年7月に開催されている音楽フェスティバル、**国際中世音楽祭 Rencontres Internationales de Musique Médiévale** の際には、毎年2千人〜3千人もの観客がトロネ修道院を訪れます。

シルヴァカーヌ修道院 は、エクス・アン・プロヴァンスから約30km北のラ・ロック・ダンテロン La Roque d'Anthéron にあります。このシルヴァカーヌの名称は、プロヴァンス地方で最大のデュランス Durance 河辺に生息する葦に由来しています。1144年に創建され、修道院としての活動を現在では行っていない唯一の場所です。1980年から毎年夏に開催される**ラ・ロック・ダンテロン・ピアノ国際フェスティバル Festival International de Piano de La Roque d'Anthéron** では、世界に名

だたるピアニストたちによる素晴らしい演奏が繰り広げられています。

神の調和ともいべき黄金分割数で知られるボスコドン修道院 Abbaye de Boscodon は、とても美しい南アルプス山地に囲まれた標高1,150mの村アンブラン Embrun 近くであり、ギグー・ドゥ・ルヴェル Guigues de Revel を中心に活動したシャレー Chalais 会の修道士たちにより1142年に創建されました。シトー会様式のこのロマネスク建築においては、様々な要素が有する象徴性に重点がおかれています。建物のコンセプト自体においても象徴性が重視され、例えば各要素がキーとなる数字に従って繰り返され（1週間の日数を表す7つの円天井）、神の調和ともいべき黄金分割数1,618に基づいた設計がなされています。



12世紀

修道院建設に取り組んだ修道士の視点から、
フェルナン・パイヨン Fernand Pouillon と石

フランス南部の出身で都市計画建築家のフェルナン・パイヨン (1912-1986) が、特に好んで使用した素材、それは石です。なぜなら彼は、石こそが光を取り入れ、時とともに美しさを増すことを知っていたからです。パイヨンは、11世紀の建築家修道士の視点から、プロヴァンス地方のトロネ修道院の建築を描いた小説「粗い石 Les pierres sauvages」で、石という素材を称賛しています。第二次世界大戦最中で仕事の数が減少した時期、当時まだ駆け出しだった若き建築家フェルナン・パイヨンは、シトー会のトロネ修道院にしばらく滞在し、当時修道士がどのように石を扱い、組み立てていったか丹念に研究しました。そのことが彼のその後の建築の基礎となり、おそらくその頃から既に構想を練っていたと思われるこの小説を書くに至ります。戦後の建築ラッシュにも関わらず資材が不足する中、石は豊富にありました。そこで彼は石材を使って計5万戸の住宅をフランス、アルジェリア、イランに次々と建設します。マルセイユの旧港に面するパイヨンによって戦後建てられたその名も「パイヨン」と呼ばれる集合住宅に、彼の建築スタイルがよく現れています。また現在のプロヴァンスの視点ミュージアム Musée Regards de Provence は、パイヨンが建設したかつての保健センターで、戦後旧植民地から移民労働者を受け入れ監視する場所として使用されたため、「パイヨンの監視所」とも呼ばれました。

詳しくはこちらからどうぞ

セナンク修道院 www.senanque.frシルヴァカーヌ修道院 www.abbaye-silvacane.com国際ピアノフェスティバル www.festival-piano.comトロネ修道院 <http://thoronet.monuments-nationaux.fr/>

国際中世音楽祭

Festival Internationale de Musiques Médiévales

2015年7月23日~30日

<http://musique-medievale.fr>ボスコドン修道院 www.abbayedeboscodon.euアンブラン観光局 www.tourisme-embrun.com

プロヴァンスの視点ミュージアム

Musée Regards de Provence

常設展

港湾保健センターの記憶

www.museeregardsdeprovence.com

13世紀

アルルの北にレ・ボー Les Beaux とアルピーユ Alpilles 渓谷が広がります。見渡す限りのオリーブ畑とブドウ畑、アルピーユ山脈と白い石灰岩が織りなす景色、また中世にはプロヴァンス一帯を支配し栄えた歴史が、ここを訪れる人々の心を引きつけてはなりません。アルピーユ山地にそびえ立つ長さ900m、幅200mの岩山に築かれたレ・ボー・ド・プロヴァンス Les Baux de Provence からアルルとカマルグを見渡すことができ、大変美しいパノラマの景観が目の前に広がります。13世紀に村に築かれた広大な要塞ですが、今は廃墟となっています。中世にはレ・ボーの領主が長きに渡りプロヴァンスで最強の勢力を誇り、名声を得ていました。城塞にはかつてここで繰り広げられた激しい戦いの歴史が詰まっており、何度も攻略の対象となりました。廃墟となった現在でもまだ残る城塞の重厚な主塔は、この城塞がいかに重要な位置を占め、ここを欲する者たちの攻撃の対象となったかという中世の歴史を今に伝える、類稀な遺跡となっています。根気強く修復作業が続けられ、「フランスで最も美しい村々 Plus Beaux Villages de France」の一つに指定されているこの小さな村は、22の歴史的建築物を抱えています。

レ・ボーの名前は、アルミニウム鉱石のボーキサイト bauxite から来ています。ボーキサイトはこの地で最初に発見され、20世紀に枯渇するまで採掘されていました。そのボーキサイトの採掘によって、村の周辺に広がる地獄谷にはいたるところに穴が開き、広大な白い石灰石の岩肌が広がっています。

1976年、写真家のアルベール・プレシー Albert Plécy は、この地を「完全映像」の世界を追求するための空間と定め、こ

の石灰岩の採掘場跡を「カテドラル・ディマージュ Cathédrale d'Images (イメージの大聖堂)」と名付けました。

多くの芸術家がこの空間の美しさに魅了され、インスピレーションを得てきました。1959年、ジャン・コクトー Jean Cocteau は映画「オルフェの遺言 Le Testament d'Orphée」のロケ地として、地獄谷を選んでいました。

1976年にカテドラル・ディマージュ(イメージの大聖堂)と命名され、現在ではカリエール・ド・リュミエール Carrières de Lumières(光の石切り場)と名称を変えたこの場所は、レ・ボー・ド・プロヴァンスの地獄谷の、かつての石切り場を利用した壮大な空間に、巨大な写真が白い石の壁や天井に次々と映し出されます。毎年様々なテーマで上映が行われ、3Dスクリーンに映し出される幻想的で迫力のある映像に、まるでイメージと音楽の世界に吸い込まれていくような感覚を体験できます。2015年3月6日~2016年1月3日まで、「レオナルド・ダ・ヴィンチ、ラファエロ、ミケランジェロ：ルネサンス期の巨匠たち」が開催されています。

www.carrieres-lumieres.com

レ・ボー・ド・プロヴァンスとモナコ公国

1641年、レ・ボー・ド・プロヴァンスは現在のモナコ大公 Prince souverain de Monaco の始祖であるグリマルディ家のヘラクレス Hercule de Grimaldi が譲り受け、公爵領として認められます。今日でも公爵は非常に名誉ある位で、レ・ボー公爵の名は、モナコ公国のアルベール大公 Prince Albert de Monaco に現在でも引き継がれています。



14世紀

法王がプロヴァンスに君臨したことは、アヴィニョン Avignon に建てられた壮大なゴシック建築の法王庁 Palais des Papes とその要塞に象徴され、アヴィニョンが中世にキリスト教世界の首都となり、法王による絶大な権力支配を受けていたことがわかります。

芸 術と歴史の街アヴィニョンは、プロヴァンス・アルプ・コートダジュール地方を代表する文化の街の一つです。ヨーロッパで最も美しいゴシック建築物である法王庁宮殿、そしてサン・ベネゼ橋 Pont Saint-Bénézet は、ユネスコ世界遺産に認定されており、中世の通りや美しい個人邸宅が、またこの街をさらに素晴らしいものとしています。そしてカルヴェ美術館 musée Calvet、アングラドン美術館 musée Angladon、ランベール現代美術コレクション Collection Lambert といった数々の有名な美術館もあります。

要塞と宮殿、二つの役割を担っていた法王の住居は 14 世紀、ヨーロッパでキリスト教世界の本部となり、城壁に囲まれたアヴィニョンの街の北側に建てられます。またローヌの左岸、宮殿北側に広がる丘の上にはロシェ・デ・ド rocher des Doms 公園があります。法王庁宮殿の建築には 20 年の歳月が費やされ、計 7 名の法王が即位しました。1335 年にベネディクト 12 世 Benoît XII、1342 年にクレメンス 6 世 Clément VI、1352 年にインノケンティウス 6 世 Innocent VI、1362 年にウルバヌス 5 世 Urbain V、1370 年にグレゴリウス 11 世 Grégoire XI、そして 1377 年に法王庁が再びローマに戻った後も、1394 年にはベネディクト 13 世 Benoît XIII が座所します。

面積 15,000 m²もの広大な宮殿は、二つの建物から構成されています。ベネディクト 12 世によって建てられた旧庁は宮殿北の岩壁側にあり難攻不略の要塞となっており、クレメンス 6 世による新庁は、アヴィニョンで最も豪華な様式の建物です。法王庁宮殿は、当時最高のフランスの建築家、ピエール・ペyson Pierre Peysson とジャン・デュ・ルーヴル Jean du Louvres (またはド・ルビエール de Loubières)、そしてイタリアのシエナ派で最も優れた壁画家、シモーヌ・マルティニ Simone Martini とマテオ・ジオヴァネッティ Matteo Giovanetti の功績による大作です。今日、法王庁宮殿を訪れる人は年間 60 万人を数え、フランスの建造物における年間訪問者数トップ 10 に入っています。3 年前から日没後に、法王庁宮殿の壁に迫力ある

高画質の映像を照らす「レ・ルミネセンス Les Luminessences」が開催されています。また夏のプロヴァンス地方での一大イベント、70 年近い歴史を誇るアヴィニョン国際演劇祭 Festival International de Théâtre d'Avignon の期間中は、法王庁宮殿の中庭や街のいたる場所が劇場の舞台となり、世界中から名の知れた監督や俳優、また演劇愛好家たちが集結します。

「アヴィニョンの橋の上で」の歌で有名なサン・ベネゼ橋は、1177 年にかけられた橋で、17 世紀まで修復工事が続けられていました。建造当時は長さ 900 m、22 のアーチがありましたが、ローヌ河の度重なる氾濫で破壊され、現存するのは 4 つのアーチしかありません。法王領とフランス領の境界に位置したこの橋は、数キロ上流又は下流に迂回しなくてもローヌ河を渡ることのできる手段として大変便利であったため、通行料や建造者である聖ベネゼ Saint-Bénézet への寄進という名目で税収を得るのにつけていました。

詳しくはこちらからどうぞ

アヴィニョン観光局 www.avignon-tourisme.com

アヴィニョン国際演劇祭 (7月) www.festival-avignon.com, juillet

アヴィニョン・レ・ルミネセンス www.lesluminessences-avignon.com

2015年8月12日~10月3日

ジェラルド・フィリップ

Gérard Philipe

「アヴィニョンの王子」

「私は2回誕生した。一度目は1922年12月4日に。そして2度目は1951年7月にアヴィニョンで、ジャン・ヴィラーJean Vilarとの出会いによって、本当の演劇に出会えた時だ。」俳優ジェラルド・フィリップは、アヴィニョンの法王庁宮殿中庭で演じたことで、また美女と剣士が登場する数々の映画作品に出演したことで知られた俳優です。第二次世界大戦直後の1947年に初めて開催されたアヴィニョン演劇祭の創始者ジャン・ヴィラーの名とともに、国家また市民規模の演劇の誕生に貢献した人として名を刻まれているのです。

ベネディクト 12 世、アヴィニョンの初代法王

シトー会の修道士出身で、その修道会の戒律を忠実に守りいつも白衣をまとっていたため、白い枢機卿というあだ名がついたほどでした。法王への任命後も地味で厳格なシトー会の様式を尊重し、それまでのローマ教皇庁の生活スタイルとは全く異なりました。彼は法王就任後ほどなく法王庁宮殿の建設を命じ、20年の歳月を経て「旧庁」が完成します。外観は飾りのない重厚な防壁で、宮殿と言うよりはむしろ要塞に近く、高くそびえる複数の塔は荘厳な雰囲気を出しています。プロヴァンスのアヴィニョンの街にそびえ立つこの法王の住居、法王庁宮殿には、フランス王に対する法王庁の独立の意志が強く現れています。



16世紀



ルイ 14 世の時代に活躍した天才軍人技師、ヴォーバン Vauban が手掛けたプロヴァンスの要塞。ヴォーバンが築いた防衛施設群は、ユネスコ世界遺産に最近登録されました。中でもブリアンソン Briançon とドファン山 Mont-Dauphin は、ヴォーバンの最も優れた 12 の要塞建築の中に数えられます。

山岳要塞の傑作、 ブリアンソンとドファン山

今日、南アルプスの中に位置し、フランスで最も高地にある保養地、そしてスキー場としても有名なブリアンソンは、ヴォーバン元帥によって建てられた要塞都市です。またエクラン国立公園 Parc national des écrivains とケイラス地方自然公園 Parc régional du Queyras の間という位置関係にも恵まれています。ガーグイユと呼ばれる動物や怪物をかたどった軒先の排水口、泉、壁画、太陽時計が、興味深い街の歴史に花を添えますし、自転車レース、ツール・ド・フランスが通過する際にはとてもにぎわいます。

5つの谷が交わる戦略上の要衝を占めるブリアンソンは、標高 1,326 m の岩山の上に築かれた独特の街です。ヴォーバンの構想は、城壁を縦に重ねて築いた中に街を収め、さらに砦で取り囲むというもので、難攻不落にすることでした。また侵略者は必然的にキリスト教徒だったことから、彼は最も弱い砦の上に壮大な教会を建て、敵があえてそこを攻撃しないようにしたのです。

1713 年～1734 年にかけて、彼のこの築城構想が厳格に実行に移されます。街は約 3 km に渡って広げられ、その上部は砦で保護されました（ランドウイエ砦 Fort du Randouillet、トロワ・テット砦 Fort des Trois-Têtes、ドファン砦 Fort Dauphin、レ・サレット砦 Redoute des Salettes）。また人々の往来も考慮され、アスフェルド橋 Pont d'Asfeld とコミュニケーション Y

Communication Y（長さ 200 m の屋根付き通路）も加えられます。このブリアンソンという壮大なサイトから、それまで定着していた築城方式を完全に切り離し、独自の手法で状況に適合させたヴォーバンの軍事技師としての優れた才能が理解できるでしょう。

ドファン山は南アルプス山地のギル Guil 渓谷とデュランス Durance 渓谷を見下ろし、ヴァール Vars、リズール Risoul といったスキー場とエクラン山地に広がる氷河の間にあります。

周囲に氷河が広がるドファン山の要塞は、1693 年の築城以来、当時の軍事建築様式が見事に保存されています。ギレストル Guillestre で採掘された赤みがかった大理石でできた素晴らしい建築物の集合体であるこの場所は、1 年を通じて人の住む快適な村になっています。別名「千の風」とも呼ばれる不毛な台地の切り立った崖の上に築かれたこの星型の要塞は、イタリア側からのデュランス渓谷への侵入を防ぎ、プロヴァンス地方とドフィネ Dauphiné 地方を守りました。

この赤みがかった大理石の城壁後方には、かつてルイ 14 世に仕えた兵士たちが住んでいた兵舎や不寝番の櫓、火薬庫、また武器や火薬を収めていた兵器庫もあります。軍服と三角帽を身にまとい、長い歩兵銃を持ってこの要塞から飛び出してくる王の兵士たちの姿が想像できますね！

フランソワ 1 世の命で、1527 年～1529 年にかけて建てられたイフ城 Château d'If は、マルセイユで最初の王立の要塞でした。1702 年、ヴォーバンは監視人の住む家「ヴォーバンの兵舎」を建てます。マルセイユの沖に建てられたかつての牢獄は現在、重要歴史文化財に指定され、アレクサンドル・デュマ Alexandre Dumas 作の小説「モンテ・クリスト伯 Le Comte de Monte Cristo」で有名になりました。

ヴォーバン侯セバスチャン・ル・プレストル Sébastien Le Prestre, marquis de Vauban(1633 - 1707) は、フランス人の技術者、軍事建築家、都市計画家、水力技師、エッセイストで、ルイ 14 世より元帥の称号を受けました。

ヴォーバンの多くの著書を読むと、彼が 18 世紀の啓蒙思想家の先駆者とも言えることがわかります。現実を、数学的とまでは言わないにしても科学的に解釈し、彼の仕事に幅広く適用しました。都市、土地、要塞を包囲して攻める、あるいは包囲された側として守る都市攻囲術のエキスパートであった彼は、フランス王国に「鉄のベルト」を与えます。それはすなわち、彼自身の言葉を借りれば、フランスを一連の砦で守られた方陣とする、ことだったのです。こうして彼は 100 近い要塞を築いて整備しますが、決して最初から難攻不落の要塞を築こうとしたわけではありません。なぜなら彼の戦略は、要塞に駐屯する兵士の 10 倍以上に及ぶ数の敵をくぎ付けにすることで、時間稼ぎをすることを重視したからです。彼はフランスに斜堤を築き、ルイ 14 世が統治した時代から重火器の進歩によって要塞の重要性が低下していった 18 世紀終わりに至るまで、国の防衛に多大なる貢献をしました。

詳しくはこちらからどうぞ

ヴォーバンの防衛施設群 www.sites-vauban.org

ブリアンソン観光局 www.ot-briancon.fr

ドファン山 www.montdauphin-vauban.fr

イフ城 <http://if.monuments-nationaux.fr/>



17世紀



プロヴァンスのルネサンス芸術から、印象派や都市開発の近代化が
図られた啓蒙時代のモニュメントまで、様々な様式の出合いのつぼ。

プロヴァンスの歴史首都エクス・アン・プロヴァンス Aix-en-Provence は、その建築の豊富さから、18世紀には「小ヴェルサイユ」とも呼ばれました。当時の素晴らしい建築を、歴史の移り変わりとともに発見してください。街の通りや広場のいたるところに古代ローマ時代の名残、善良王ルネ bon roi René、革命家ミラボー Mirabeau、そしてもちろんセザンヌ Cézanne の足跡を見ることができますよ！大噴水のあるロトンド広場 Place de la Rotonde から街のメインストリート、ミラボー大通りを進むと、通りに並ぶ **17世紀から18世紀に建てられ数々の美しい個人邸宅**が目飛び込んできます。

パヴィオン・ヴァンドーム Pavillon Vendôme は、ルイ14世時代の最も美しい「豪華な館」です。1665年、ヴァンドーム公が「カネの美女 la Belle du Canet」と呼ばれた美しい女性との秘め事のために造営させたものでした。彼は「恋に落ちた」この女性と結婚したいと願っていましたが、国王ルイ14世を前に、はかなくもこの希望は消え去ります。そこでこの美女はヴァンドーム公の愛人となり、二人で過ごすための「別荘」を建築家**アントワーヌ・マティス Antoine Matisse**に造営させたのです。見事なフランス式庭園に囲まれた館のファサードの柱には、古典的な3様式が取り入れられ、**バロック様式**の立派な男性像や果物の飾り、また彼の愛人「カネの美女」の顔を形どったと言われる装飾が施されています。今日では美術館となっているパヴィオン・ヴァンドームには、17世紀～18世紀の肖像画やプロヴァンスの調度品が展示されており、現代、又は近代アートの特別展も開催されています。

他方マルセイユでは1640年、国王の「貧民封じ込め」政策に従い、街の評議会が「マルセイユに生まれた貧しい人々を、適切な場所に閉じ込める」ことを決定します。そこで1670年、**国王お抱えの**

建築家でマルセイユ出身の**ピエール・ピュジェ Pierre Puget**が、物乞いや貧しい人々を収容する場所として**慈善院 Hôpital Général**の建設を依頼されます。翌1671年、礎石が置かれて建設が始まったこの慈善院は、**ピエール・ピュジェの作品のうち最も美しい建築物の一つ**となっています。1749年完成のこの建物は、4つの翼棟からなり外部と遮断され、3階建てのギャラリーが長方形の中庭を取り囲み、男女別に分かれた広大な仕事と生活の空間となっていました。中庭の中心には、1679年～1707年に建てられた**卵型ドームの天井の見事な礼拝堂**があり、これはイタリア・バロック建築の代表作です。現在のファサードは、少し遅れて1863年に完成したもので、慈善をモチーフにしています。

フランス革命後から19世紀終わりまで、この慈善院は老人と子どもたちの慈善院となりました。1905年には軍に占拠され、その後は最も貧しい人々を受け入れます。第二次世界大戦後はしばらく放置され、取り壊しの危機に直面しましたが、1951年に建築家**ル・コルビュジエ Le Corbusier**のてこ入れで歴史的建造物に指定されました。改修工事を経て1986年から、**フランスで最も古いパニエ Panier 地区**の中心にあるこの旧慈善院**ラ・ヴィエイユ・シャリテ la Vieille Charité**は、科学と文化をテーマとする様々な専門分野を取り扱うセンターとなっています。また内部には地中海考古学博物館 Musée d'Archéologie Méditerranéenne、アフリカ・オセアニア・アメリカ先住民博物館 Musée des Arts Africains, Océaniens, Amérindiens (M.A.A.O.A.)があり、特別展が開かれる展示室もあります。

詳しくはこちらからどうぞ

エクス・アン・プロヴァンス観光局 www.aixenprovencetourism.com

マルセイユ観光局 www.marseille-tourisme.com

マルセイユ旧慈善院 <http://vieille-charite-marseille.com>

ピエール・ピュジェ (1620 - 1694) はマルセイユで誕生し、この地で亡くなりました。17世紀に活躍した**彫刻家、素描家、画家、建築家**で、18世紀～19世紀の多くの芸術家は彼を「フランスのミケランジェロ」と絶賛し、画家のニコラ・プッサン Nicolas Poussin と並んで、ルイ14世時代のフランスの古典精神を代表する彫刻家の一人です。またフランスにバロック芸術をもたらした芸術家の一人でもあり、彼の作品にはその様式がとても良く表れています。ルイ14世時代に活躍した、最も有名な芸術家といえるでしょう。ヴェルサイユやイタリアのジェノバにある彼の壮大な大理石の彫刻作品は、パリ同様ローマでも高い評価を受けました。



19世紀



マルセイユの都市開発と旧港、様々な様式の出会いのつぼ。 街の発展に伴い、マルセイユは 19 世紀に激動の時代を迎えます。

マルセイユにどの方向から到着しても、海拔 160 m の丘の上にある **ノートルダム・ド・ラ・バジリカ聖堂 Notre-Dame de la Garde** の頂上にそびえる「ボンヌ・メール la Bonne Mère (優しい聖母さま)」を目にすることができます。この丘からはフォカイアの街、マルセイユの見事な 360 度のパノラマ風景が広がり、フリウル島 Iles du Frioul、イフ城 Château d'If、またさらにその奥にはプロヴァンス出身の作家で映画監督のマルセル・パニョル Marcel Pagnol が愛したガルラバンの丘 Collines du Garlaban まで見渡すことができます。

古代ローマ時代に建てられたかつての船の見張り所は、礼拝堂、さらには小さな要塞へと役割を変えました。その同じ場所に、**建築家アンリ・ジャック・エスペランデュー Henry-Jacques Espérandieu** によりローマ・ビザンチン様式に倣って設計された聖堂が 1864 年に建てられたのです。

豪華な建築素材、洗練されたモザイクの装飾は、**海への崇拝**に捧げられたこの聖堂をさらに高貴なものとし、願いが成就したカトリック信者が感謝の言葉を掲げたプレートや、信仰深い船乗りたちによって捧げられた船の模型が吊り下げられています。高さ 11,2m の金色に輝く聖母子像が、鐘楼の頂から街を見守っています。人種や信条の違いを超えて様々なマルセイユ市民が、守護の聖母にお祈りを捧げにやって来ます。地元のサッカーチーム、オリンピック・マルセイユ (OM) の勝利を聖母にお祈りする人もいますよ！ 2013 年には、この優しい聖母さまの歴史と感謝を表す数多くの奉納品を紹介した美術館が、新たにオープンしています。

ナポレオン 3 世統治下の 1862 年、マルセイユはデュランス河から街の中心に水を引いてくるための運河と、勢よく滝が流れる給水塔の建設を決めました。石と水が織りなす見事な舞台空間となっている**ロンシャン宮 Palais Longchamp** は、**建築家アンリ・ジャック・エスペランデュー**によるもので、19 の列柱が半円形に並んでいます。中には、完成当時からマルセイユ美術館 Musée des Beaux-Arts と自然史博物館 Muséum d'Histoire Naturelle があり、周りを公園に囲まれています。

ロンシャン宮は、まさしく「水を称える賛歌」です。**水の最終到着地点**となったこの給水塔には、中央にカマルグ牛に引かれた荷台に乗った若い女性と、その横には肥沃の象徴である小麦とブドウを持った仲間たちの立派な彫刻像がそびえ立ち、**水の栄光**が良く表現されています。また後ろにはふっくらとした顔の子供たちと小麦の穂、ブドウの房の彫刻が続き、その浅浮き彫りはバロック様式となっています。

1855 年、マルセイユは街の発展に対して政治的に貢献した**ルイ・ナポレオン・ボナパルト Louis-Napoléon Bonaparte** に感謝の意を示すため、ウジェニー皇后 Impératrice Eugénie に捧げる「別荘」を建てたいという彼の希望をかなえました。それが**ファロ宮 Palais du Pharo** で、建築家アンリ・ジャック・エスペランデューがその一部を手掛けます。今日では公園が周囲に広がる会議場となっており、繫留地、港、大聖堂、サン・ジャン要塞 Fort Saint-Jean を見渡すことのできる素晴らしい眺めが広がります。

アンリ・ジャック・エスペランデューはノートルダム・ド・ラ・バジリカ聖堂、ロンシャン宮をはじめ、芸術宮殿 Palais des Arts、金色に輝く守護聖母といったマルセイユの数々の有名な建造物を手掛けた建築家です。またサント・マリー・マジョール大聖堂の修復工事では、その指揮を執りました。この稀な才能を持った建築家の手掛けたマルセイユの多くの建造物が、今日この街に最も美しい景観を作り出しています。「ローマ・ビザンチン」様式はおそらく、この天才建築家エスペランデューが盛んに取り入れたことにより、マルセイユの街を最も良く特徴づける要素となっています。地中海沿岸の他の世界に開かれ、昔の様式に新しい風を吹き込み、様々な文化のつぼとなっていること。まさしくそれは、フォカイア人の街そのもののなのです。



20世紀の時代



世界大戦が終結しました。復興にとりかからなければなりません。
ル・コルビュジェ Le Corbusier や彼の弟子であるパイヨン Pouillon を
始めとする建築家は、プロヴァンス地方を現代の様相に仕立て上げます。

「20世紀遺産」に認定された
ル・コルビュジェ建築の集合住宅
シテ・ラディユーズ Cité Radieuse

マルセイユの人々が親しみをこめて
「ファダの家 La Maison du fada
(頭のおかしな人が作った家)」
と呼ぶシテ・ラディユーズは、世界中の建
築愛好家によく知られている集合住宅で、
1947年～1952年にかけて、ル・コルビ
ュジェによって建てられました。

第二次世界大戦終結後、フランスは街の
復興時期を迎えます。また同時に住宅不
足の問題が深刻となり、早急な解決が迫
られました。そのため国はル・コルビ
ュジェに集合住宅の建設を要請します。打ち
放しのコンクリートの柱が並ぶピロティが
横長の棒状建物を支え、全体の構造を一
つの街の形に具体化すること、この「垂
直の都市空間」は「ユニテ・ダビタシ
オン Unité d'habitation」と呼ばれています。
この建物には337住戸、全部で23様式

(典型的な様式は2層式メゾネット)の住
居空間が、「建物内の道」で区切られてい
ます。マルセイユのシテ・ラディユーズは、
モデュロール Modulor の理論が基準となっ
ています。人体の寸法(1m83)をおへその
高さ(1m13)で割ると、1,619という黄金比
にほぼ近い数字となることから、ル・コ
ルビュジェは人体の寸法を依りどころとし
つ、黄金比と「フィボナッチ Fibonacci」
数列に基づく建造物の基準寸法を編み出
したので。

実際このモデュロールの寸法体系は、ピ
ロティの壁と小さなステンドグラスに刻ま
れています。計5つのユニテ・ダビタシ
オンがこの寸法体系で設計され、4つはフ
ランスに、そしてもう1つはドイツのベル
リンにあります。

2013年、このユニテ・ダビタシオンの屋
上庭園に芸術財団マモ MaMo (マルセイ
ユ・モデュロール Marseille Modulor)を
設立したフランス人デザイナー、オラ・イトー
Ora-ïto の作品が展示されました。そ
からは、マルセイユとプロヴァンス地方の
360度のパノラマ風景が広がります。

建築家、都市開発者、デザイナー、画家、
作家として活躍したシャルル・エドワール
＝ジャンヌレ・グリ Charles-Edouard
Jeanneret-Gris、別名 ル・コルビュジェ
(1887-1965)はスイス生まれ。ピロティ、屋
上庭園、自由な平面、水平窓、自由な立面と
いう新しい建築の「5つの要素」を打ち立て
ます。彼にとって、完全なるユニテ・ダビ
タシオンは「カバノン cabanon」と呼ばれる別
荘で、彼はそのうちの一つ、コートダジュール
地方のロックブリュンヌ・キャップ・マルタン
Roquebrune-Cap-Martinに建てた別荘を、
妻に贈りました。
2015年1月、フランスは7か国を代表して、
ル・コルビュジェによる一連の建築作品のユ
ネスコ世界遺産登録申請をしました。

詳しくはこちらからどうぞ

ル・コルビュジェ財団

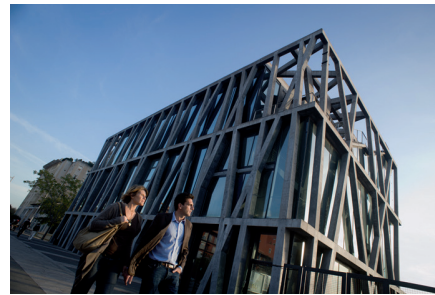
<http://fondationlecorbusier.fr>

マルセイユ・モデュロール財団

<http://mamo.fr>



21世紀の時代



2013年、欧州文化首都となったこの地方は、世界中の最も著名な建築家たちによる、様々なスタイルの建造物が日の目をみました。イタリア人のヴィットリオ・グレゴッティ Vittorio Gregotti、パオロ・コラオ Paolo Colao、ステファノ・ボエリ Stefano Boeri、レバノン人のザハ・ハディド Zaha Hadid、日本人の隈研吾、フランス人のジャン・ヌーヴェル Jean Nouvel、プロヴァンス出身のルディ・リッチオッティ Rudy Riccieti、イギリス人のノーマン・フォスター Norman Foster、アメリカ人のフランク・ゲーリー Frank Gehry、フランス人デザイナーのオラ・イトー Ora Ito などが挙げられます。

2007年6月29日、リチャード・ワーグナー作曲のオペラ、「ラ・ワルクキューレ La Walkyrie」の上演でこけら落としとなったプロヴァンス大劇場 Grand Théâtre de Provence は、エクス・アン・プロヴァンスのオペラとコンサートの会場として、イタリア人建築家ヴィットリオ・グレゴッティとパオロ・コラオにより手掛けられました。最先端の技術を駆使したこの劇場の舞台は、なんとバネの上に乘っかっているんですよ！それは、この劇場すぐ近くを通る鉄道の線路の振動を抑えるための、唯一有効な手段なのです。またこの劇場の外側は異なる色の石材が使用されているため、建物全体の立体感、この街のシンボルであるサント・ヴィクトワール山を思い起こさせます。

建築家ルディ・リッチオッティ設計のル・パヴィオン・ノワール Le Pavillon Noir は、アンジェラン・プレルジョカージュ Angelin Preljocaj 率いるプレルジョカージュ・バレエ団 Ballet Preljocaj の本拠地であると同時に、フランス国立振付センターを迎え入れています。高さ27m、幅18m、総面積3千㎡の斬新なキューブ状の独特の外観のこの建物は、エクス・アン・プロヴァンスの街並みとのコントラストが目を引きまします。劇場地下の舞台(17m×14,5m)は386名を収容でき、黒の粗製鉄筋コンクリートとガラスで構成されています。

2013年に開館した欧州地中海文明博物館 Musée des Civilisations de l'Europe

et de la Méditerranée, MuCEM は、21世紀初の大規模国立博物館で、地中海文明に特化した博物館です。またパリ以外で唯一の国立博物館です。建築家ルディ・リッチオッティ設計による総面積15,000㎡のキューブ状の外観と、3,700㎡もの展示総面積を持つ斬新、かつ堂々たる建物です。修復工事を終えたサン・ジャン要塞(ルイ14世時代の建造)とJ4と呼ばれる遊歩道にもなっている広場が、長さ130mの高架橋で結ばれており、地中海に面したこの新しいスペースや公園で快適なお散歩が楽しめるでしょう。また野外でのスペクタクルを楽しんだり、カフェやライブラリーといったお店で一息つくのもいいかもしれませんね。そして要塞の王の門からサン・ローラン教会 Eglise Saint-Laurent に延びる2つ目の高架橋で、パニエ地区に行くことができます。

欧州地中海文明博物館は、誰もが訪れることのできる、そして人類学、歴史、考古学、芸術史と現代芸術をミックスした多角的な場所なのです。

同じく2013年、その隣にオープンしたヴィラ・メディテラネ Villa Méditerranée は、まさしく建築の金字塔。2千㎡の貯水池を見下ろす高さ19mにも及ぶ、世界で最も長いポルト・ア・フォと呼ばれる建物の張り出し部分が伸びており、圧巻です。イタリア・ミラノ出身の都市計画建築家ステファノ・ボエリが手掛け、地中海地域の様々な交流の場となっています。またマルセイユの現代美術基金センター FRAC, Fonds Régional d'Art

Contemporain は、日本人建築家の隈研吾による設計で2013年にオープンしました。街を照らし出すかのようなこの建築は、総面積5,400㎡、展示面積は1,009㎡に及びます。ガラスとブロックパネルに覆われた外装は、この建物を「包み隠しのない」より開かれた空間としています。建築をできるだけ目立たせず、むしろ周囲の環境を引き立てることで、中と外のギャップが訪れる人々を驚かせ、また重量感と階層構造を組み合わせたダイナミックな内部が、目を引きまします。最小限の素材(コンクリートとガラス)を使用し立体感、重量感、開放感と光あふれた空間を作り上げた隈研吾は、日本の伝統を最も現代的な建築へ持ち込んだのです。他方、訪問者の動線に向けられた注意は、ル・コルビュジェが手掛けた集合住宅ラ・シテ・ラディューズの建物内の道の設計原理を思い起こさせます。

芸術、建築、ワインを併せ持つエクス・アン・プロヴァンスの近くのシャトー・ラ・コスト Château La Coste は、他のドメヌとは全く異なっています。フランス建築界のスター、ジャン・ヌーヴェルが設計した2つの醸造用建物は、ガラスとステンレスでできた半円筒の形をしています。ワイン・ツーリズムを積極的に推進するこのシャトーには、アート・センターとレストランが設置され、そして現代アート紹介のとても素晴らしい場所になっています。森、丘、ブドウ畑、オリーブ畑を自由に散策しながら、偉大なる建築家—安藤忠雄、ルイーゼ・ブルゴワ Louise Bourgeois、フランク・オー・ゲーリー Frank O. Gehry、リム・ジリック Liam Gillick、アンディー・ゴールドスワース Andy Goldsworthy、宮島達男、ツンガ Tunga、フランス・ウエストー Franz West らの展示作品を鑑賞できます。

詳しくはこちらからどうぞ

プロヴァンスの劇場
www.lestheatres.net/fr/
 パヴィオン・ノワール&プレルジョカージュ・バレエ団
www.preljocaj.org
 欧州地中海文明博物館
www.mucem.org
 ヴィラ・メディテラネ MuCEM
villa-mediterranee.org
 現代美術基金センター FRAC
www.fracpaca.org
 シャトー・ラ・コスト
www.chateau-la-coste.com

筋金入りの建築家ルディ・リッチオッティとコンクリート&曲線の秘密

もともとイタリア出身で、工事現場の労働者の息子として誕生したルディ・リッチオッティは、カマルグとマルセイユで育ち、勉学を続けました。2006年に建築部門の国内グランプリを受賞後、2013年には彼の設計による欧州地中海文明博物館が開館します。彼は、世界の文化に開かれた非常に寛容な建築作品を作り出しています。

www.rudyriccieti.com



COPYRIGHTS

Couverture :

Théâtre antique d'Orange © L.Boudereaux / Culturespaces
ND de la Garde Marseille © CRTPACA - Vieille Charité Marseille © V.Lucas
Mucem J4 Marseille © Lisa Riciotti

Page 4 :

Abbaye de Sénanque- Gordes ©V.Lucas
Fort Saint-Jean Marseille © V.Lucas
Vue La Major Mucem © C.Chillio CRTPACA
Cloître Saint-Trophime Arles © V.Lucas / Arènes d'Arles © V.Lucas
Pavillon Vendôme Aix © C.Chillio CRTPACA

Page 6 :

Calanques d'En Vau © Philippe Leroux
Gorges du Verdon © C.Duranti

Page 8 :

Vue sur Fort Saint-Jean Marseille- CRTPACA

Page 10 :

Arènes d'Arles © JC.Flacomio WEGO PRODUCTION
Théâtre antique d'Orange © L.Boudereaux
Théâtre antique Vaison-la-Romaine Théâtre antique d'Orange © L.Boudereaux Fotolia
Vestiges Vaison la Romaine © C.Chillio CRTPACA

Page 12 :

Abbaye de Sénanque- Gordes © V.Lucas / Abbaye du Thoronet © P.Leroux
Cloître de Ganagobie © CRTPACA / Palais-des-Papes Avignon © V.Lucas
Les Baux-de-Provence © Fotolia
Palais des Papes Avignon © JC.Flacomio WEGO PRODUCTION

Page 16 :

Vue forteresse de Briançon © C.Chillio CRTPACA
Eglise de Briançon © C.Chillio CRTPACA
Vue Mont-Dauphin © JC.Flacomio WEGO PRODUCTION / Château D'If © ADD

Page 18 :

Vieille Charité Marseille © C.Chillio CRTPACA
Intérieur Vieille Charité © V.Lucas / Jardin du Pavillon Vendôme © V.Lucas
Hôtel de Caumont Aix-en-Provence © DeFrance.de

Page 20 :

N-D de la Garde Marseille © CRTPACA
Palais Longchamp Marseille © C.Chillio CRTPACA
Intérieur Palais Longchamp © V.Lucas

Page 21 :

Exposition Le Corbusier © C.Chillio CRTPACA J1
Cité Radieuse Le Corbusier toit © OTCM/FLC.JPG / Cité Radieuse © ADD

Page 24 :

Mucem J4 Marseille © Lisa Riciotti / © Frac / Pavillon Noir © Sophie Spiteri
Pavillon Noir © Cintas / Château Lacoste © C.Chillio / Villa Méditerranée © C.Chillio



COMITÉ RÉGIONAL DE TOURISME
プロヴァンス・アルプ・コート・ダジュール地方観光局

Provence-Alpes-Côte d'Azur
TOURISME



www.tourismepaca.com

Maison de la Région - 61, La Canebière
CS 10009 - 13231 Marseille - cedex 01
Tél. : +33 (0)4 91 56 47 00 - Fax : +33 (0)4 91 56 47 01

CONTACTS PRESSE

 presse@crt-paca.fr

www.pressetourismepaca.fr

フランス観光開発機構 広報担当連絡先

増田真由美 03-3582-6968

森由美子 03-3582-0994

Presse.jp@atout-france.fr

<http://jp.france.fr/>

<http://jp.media.rendezvousenfrance.com/>

(プレス専用サイト)